

イクメン・カジダンのすすめ



なぜ今イクメン・カジダンなのか？

個人の生活の質が重視される近年、育児などの家庭生活にもっと関わりたいと思う男性が増えています。そのような風潮を反映するかのように、育児をする男性を指す「イクメン」や家事をする男性を指す「カジダン」という言葉も広く認知されるようになりました。

この特集では、もっと多くの男性が「イクメン」・「カジダン」になれる社会を実現するために、何が必要なのかを考えていきます。

男性の育児・家事参画の現状

「イクメン」・「カジダン」という言葉が認知されるに従い、育児・家事に関わる男性は増えています。しかし、日本人男性が育児・家事に使っている時間は国際的に見て少ないと言わざるを得ません（右下のグラフ）。

また、過去20年間で改善されてきたとはいえ、平成27年度の男性の育児休業取得率は2・65%にとどまっております（左下のグラフ）、育児休業の取得期間については、5日未満が過半数、1

か月未満が8割以上を占めています（5ページ右上のグラフ）。

男性が、子どもにとって貴重な幼少期を共に過ごすためには、育児休業などの制度を活用しながら、育児・家事に関する時間を増やしていく必要があります。

なお、大田区では、男女平等推進センター「エセナおた」で、お子さんと参加できる男性の保護者向けセミナーを開催しています（5ページ左上のコラム）。

たくさんある！

イクメン・カジダンのメリット

男性が育児・家事に参加することで得られるメリットは数多くあります。

① 労働意欲アップ！

我が子の成長を見守ることで家庭に対する責任が高まり、仕事に対しても、さらにがんばろうという気持ちが芽生えます。

② 効率性アップ！

育児・家事で培った効率性は業務改善や残業時間の短縮につながり、残業に充てていた時間を育児・家事に活用できると、好循環が生まれます。

③ 新しいアイデアの芽！

育児・家事という新たな経験

男性の育児休業取得率の推移



6歳未満の子どもを持つ夫の家事・育児関連時間 (1日当たり、国際比較)

